

第1回いなべ市行政改革推進委員会 会議概要

日時・場所	平成23年 3月24日 午後2時から 員弁庁舎第7会議室
出席者	委員：11名出席（丸山康人、東川薫、市川榮司、伊藤隆、児玉正光、三輪了啓、西村貴樹、水谷司、稲葉淑乃、畑中准子、近藤節子）以上敬称略 説明者側：行政改革本部員：4名（総務部長、福祉部長、企画部長、農林商工部次長） 事務局：8名（政策課、長寿介護課、南地域包括センター）
会議次第	1. 開会 2. 委嘱状交付 3. 市長あいさつ 4. 委員紹介（自己紹介） 5. 審議事項 ①会長選出 ②会長あいさつ ③今後の進め方について ④見守りネットワークと自治会別の高齢化率の現状について ⑤意見交換
配付資料	1. 事項書 2. いなべ市高齢者見守りネットワーク 資料1 3. いなべ市高齢者見守りネットワークのイメージ図 資料2 4. 自治会別高齢化率分布図 資料3 5. いなべ市行政改革推進委員会設置要綱 資料4
審議の概要	審議事項（以下●印は委員長、◎印は委員発言、○印は事務局発言） ※市長あいさつ ●行政改革推進委員会については、幼保一元化などにより経費削減に一定の成果が得られました。丸山先生を中心に委員の皆様には大変お世話になりました。少子高齢化を背景にいわゆる“無縁社会”がいなべ市でも広がってきています。家族や地域の絆が弱まりつつあるなかで、高齢者や障がい者などを見守る新しい仕組みが求められています。今回の行政改革推進委員会では高齢者を見守るシステムを構築するための提言をお願いします。 ※各委員紹介（自己紹介） ※会長選出

会長には丸山康人四日市看護医療大学副学長が選出される。
東川薫四日市看護医療大学准教授が副会長に選出される。

※会長あいさつ

※今後の進め方について

会議は公開とし会議録については無記名で会議概要を作成した上で市ホームページに掲載することが承認された。

※見守りネットワークと自治会別の高齢化について

○資料1、2、3を使用し説明

誰もが、生まれ育った地域の中で、健康で、自分の事は自分でできて、いつまでも自分らしく暮らしたいと考えています。

そうした状況の中、いなべ市では、地域の中で地域の人が互いに支えあう、助けあう、見守りあう体制づくりを構築していくために、平成21年度から「いなべ市高齢者見守りネットワーク」事業を進めています。

資料1は、いなべ市高齢者見守りネットワークの概要図です。この事業は「さりげないふとした気づきの連絡ネットワーク」を基本にしています。

高齢者を取り巻く、さまざまな問題として「ひとり暮らし・高齢者世帯の生活不安」、「徘徊・行方不明事故」、「高齢者虐待」、「悪徳商法・消費者トラブル」、「認知症」など、さまざまな問題が増えており深刻化しています。

そこで、市内の各種団体・組織と連携して「ひとり暮らし・高齢者世帯の見守り」、「徘徊・行方不明事故の見守り」、「虐待防止、早期発見」、「悪徳商法被害防止」、「認知症への見守り」対策を進めています。

この事業は、緒についたばかりであり、本年22年度には各種組織・団体への協力依頼と、市内のモデル地区3箇所へアプローチを始めたところです。

また、資料2で「いなべ市高齢者見守りネットワーク」のイメージ図を示めさせていただきました。例えば、民生委員さんには、訪問による見守り、老人クラブさんには、近隣地域でのミニサロンでの見守り、地区自治会では、近所づきあい、日常的な見守り、などです。新聞配達の方、郵便局配達職員さんも含めまして、そうした組織団体との連携として、地域包括支援センター、市社会福祉協議会、医療機関、警察、消防、商工会さん、JAみえいなべさん等との連携を深めていきます。

資料3は市内の高齢化率を図面化したものです。

赤丸が高齢化率30%以上の地区で、市内に20箇所と、他に阿下喜地区で8地区あります。また、25%～30%の地区が、ピンク色です。

旧北勢町と藤原町の高齢化率が高いことが見て取れると思いますが、員弁町、大安町でも、今後は確実に高齢化が進行していきます。

今後、いなべ市の現状の分析から課題を明らかにしていただき、地域の福祉力を高めるようなまちづくりのあり方、高齢者のあり方について、どうあるべきかご議論を申し上げ諮問いただきますようよろしくお願い致します。

※意見交換

◎市内のモデル地区3箇所へアプローチを始めたところのことですが、地区名と選定理由を教えてください。

○篠立、坂本、新町上・新町下地区です。

篠立地区は高齢化率が高い中、地域再生の取り組みが活発していることが選定の理由です。また、坂本地区も高齢化率が高い中、防災組織が確立していることが選定の理由です。新町上・新町下地区は篠立、坂本地区と比べると高齢化率は高くありませんが、地域を守るという意識が強いことが選定の理由です。

◎高齢化率が高いことだけを選定理由とせず、住民意識が高い地区を選定したことは良いことである。

◎先般、無縁社会についてNHKが特集していたが、10年ほど前に同じくNHKが、いわゆる“呼び寄せ老人”が、環境変化についていけずに、うつや認知症になるという問題についての特集番組の取材を受けたことがある。あれから10年が経過し今日の無縁社会を考えると“呼び寄せ”がある方がまだ良い方である。このような社会変化や人口の変化に対して行政の型を変えていくことがまさに行政改革である。

◎地域の高齢化に伴い高齢者の居場所づくりに取り組んでいる。高齢化マップを見て危機感を感じる。これまで約260人のサロンサポーターやサロンリーダーが養成講座によって育っている。社協という住民に近い立場でニーズを的確につかみ活動に活かしていきたい。

今後、この委員会の中で資料等もまとめて説明をしていきたい。

●市内における独居老人の実態を調べてください。

◎ふれあいサロンでは仲良し同士の集まりに限定されていて地区全体に広がっていない。地区全体に広がっていくには時間がかかると思われるが少しずつ広がっていききたい。

●自立・主体的な活動を行っていくことが大事です。

◎高齢者が悪徳商法の被害となるケースが後を絶たない。訪問によって悪徳商法の被害を未然に防止できたケースがあった。

◎いわゆるSF商法が全国的に多発しており、高齢者がその被害に遭うケースが高い。このような事件の特徴として被害情報が入ってくるのが遅い。防止対策として広報など

による情報発信は行われているが、必要な方に行き渡っていない。老人会や民生委員などの横の連携が大事である。

●高齢者に必要な情報が行き渡るネットワークの構築に向けて1年間議論してきましょう。

◎高齢者を孤立させないために、地域の中で向こう三軒両隣を見回ることが大事である。この冬も一人暮らしの老人宅の除雪を地域が協力し行った。助け合いが大事である。行政に対してあれもこれも頼む時代ではなくなっている。自分たちでやれること、地域でやれること、行政にお願いしなければならないことを整理することが地域づくりにおいては重要である。

●委員の発言された取り組みが、全市に広がっていくような仕組み作りが必要です。

◎無縁社会を無くしていくことが大事だが、個人のプライバシーの問題が取り組み壁となっている。イベント時に老人をお迎えに行くような発想は素晴らしく参考になる。一歩踏み込んだ対話や面談を進めて行きたい。

●個人情報の取り扱いが非常にシビアになってきており、社会が“ぎくしゃく”してきている。ネットワークづくりには必ず壁になる問題である。もちろん個人情報の保護は大事であるが、ネットワークづくりにおいてどう対応していくかが課題である。

◎民生委員では月2回の訪問を行っており、悪徳商法の被害を防いだことがある。プライバシーの保護などにより、どこの家の方が認知症なのか分からず対応に苦心している。ふれあいサロンに参加できない方や参加されない方への対応が課題である。包括支援センターとの意見交換を積極的に行っていきたい。

◎防災の観点からからも向こう三軒両隣のつながりが大事である。このようなつながりを地域はもちろん全市に広げていけば、いなべ市は良いまちになる。

◎商工会においても高齢化により会員数が減少している。長寿化の中で趣味や生き甲斐作りが大事である。また、高齢者だけではなく次代を担う若者世代への対策や関わりが大事である。

●暮らしやすいまちづくりのためには、その対象として高齢者だけを見ていくのではなく、働き盛りの方や若い世代の方が暮らしやすい地域にすることが大事である。一般的に65歳以上の方を高齢者というが、これらの方たちの中には、元気に社会参加している方たちもいる。このような状況から、いなべ市独自の高齢化率の基準があって、これにインセンティブがあっても良いのではないか。

○次回はの会議は5月中旬の開催を予定しておりますが、議論に必要な資料や紹介をし

	<p>たい資料がございましたら、事務局に申し出てください。</p>
--	-----------------------------------